



ソフトバンクグループの ノウハウを強みに 最新の技術にも対応し 業界トップクラスの 実績を誇る。

ソフトバンク・ペイメント・サービスは、その名の通り、ソフトバンクグループの一員である。2004年、グループの決済統合事業を担う目的で設立されたが、以後、グループ内はもとより、グループ外企業についても、幅広く決済サービスを提供してきた。08年度・09年度の年間売上高は、業界トップクラス。名実ともに市場をリードする存在になりつつある。

ソフトバンク・ペイメント・サービス

**2004年の設立以来
急成長を続ける
柔軟な対応力で
業界をリードする存在へ**

ソフトバンク・ペイメント・サービスが順調に実績を伸ばしている。決済代行事業だけを見ても、すでに7300以上で同社のサービスが導入されている。月間売上処理件数は約1600万件、月間決済取扱高は7

20億円に達している（いずれも2010年7月末現在）。2004年に設立された若い企業でありながら急成長を続ける要因を、同社営業本部長の山浦政彦本部長は次のように説明する。

「ソフトバンクグループで培ってきた実績をご信頼いただくとともに、さまざまな決済手段に積極的かつ柔軟に対応している点を評価いただいていると自負しています」。

ソフトバンクグループには、通信事業会社だけでなく、ソフトバンクモバイル（移動体通信）、ソフトバンクBB（ブロードバンド）、ソフトバンクテレコム（固定電話）などがある。これらの大規模なトランザクション処理に対応した決済サービスのほか、グループのeコマース、コンテンツ販売などさまざまな事業についても、ソフトバンク・ペイメント・サービスが決済基盤プラットフォームを提供している。

あらゆる決済手段に対応できるのも、同社ならではの。クレジットカード、コンビニ支払い、IC型電子マネーなど、ほとんどすべての決済手段に対応できるほか、中国最大規模のオンライン決済サービス「Alipay（アリペイ）国際決済」や、190以上の国や地域で決済できる「PayPal（ペイパル）」など最新の決済手段

にもいち早く対応している。

スマートフォン向け 決済画面サービスなど マルチデバイス対応も 率先して進める

インターネットの利用環境が年々多様化している中、特に注目されているのが、「iPhone（アイフォン）」などの高機能携帯電話（スマートフォン）への対応だ。

事業企画本部サービス企画部の鈴木和香子担当本部長は、「いつでも、どこでも、誰でも使える決済サービスを提供するために、マルチデバイス化も積極的に進めています」と話す。

この9月には、iPhoneに対応した決済画面もリリースされた。デバイスに対応したデザインにより、支払い画面の操作性の向上や購入途中の離脱率を低減させるのが狙いだ。

「このほか、Android（アンドロイド）・米グーグル社が開発した携帯



営業本部 本部長
山浦 政彦

※ Apple、Appleのロゴ、Mac OSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
iPhone、iPad、Multi-TouchはApple Inc.の商標です。
※ iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
※ iPhone、iPadは単独の通信業者のサービスでのみお使いいただけるよう設定されている場合があります。



事業企画本部
アライアンス企画部 部長
花村 学



事業企画本部
サービス企画部 担当部長
鈴木 和香子

2010年9月にはiPhoneに対応した決済画面の提供を開始。利用デバイスに合わせたデザインで操作中の購買途中の離脱率を低減させる。Androidでの展開も予定するなど、決済サービスのマルチデバイス化を実施する



電話用基本ソフト）を搭載した端末向け画面の開発にも着手いたしました」（鈴木部長）。

前例のないサービスを業界に先駆けて生み出す姿勢はソフトバンクグループのDNAでもある。今後は、アップル社の電子書籍に対応した多機能端末「iPad（アイパッド）」や、地上デジタル放送機器など、急拡大が予想される市場への素早い参入が期待される。

豊富な実績による提案力が強い
決済市場のデファクトスタンダードを目指す

市場の健全性の向上や活性化につながる取り組みにも力を入れている。ソフトバンクモバイルでは、2008年から携帯電話の不正契約防止に取り組んでいる。個人信用情報機関と連携し、契約者の審査を行うことで、不正な契約を未然に防ぐとい

う仕組みだが、同社はその業務も担っている。この取り組みにより、ソフトバンクモバイルの携帯電話割賦販売代金の貸し倒れが大幅に減少したという。

事業企画本部 アライアンス企画部の花村学部長は、「今後は、新たに構築した法人審査の仕組みを含め、外部へのサービス展開も計画しています。当社の新しい事業が市場に新しい価値を提供できると自負しています」と話す。

同社は、Open IDファウンダー ション・ジャパン（インターネットのさまざまなサービスを一つのIDで利用可能にする仕組みの普及を進める団体）や資金決済業協議会などにも参加し、市場の変化に対する取り組みなどについて提言も行っている。

「販売から決済、管理まで一貫したサービスを提供できるのが当社の特色です。お客様と一緒に新しいビジネスモデルづくりをお手伝いしたいと考えています」（花村部長）。

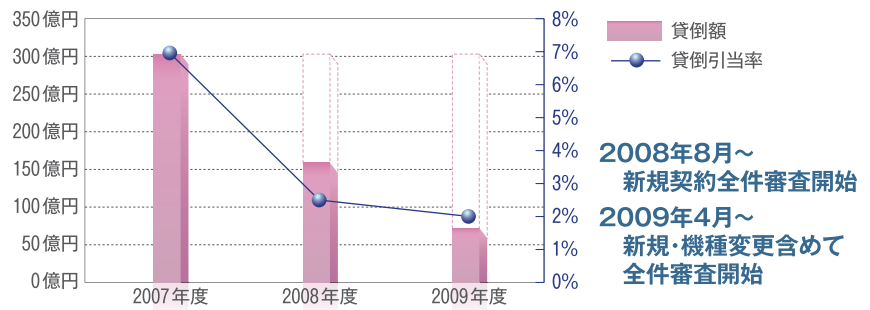
山浦本部長も次のように加える。

「手軽に利用いただけるASPからオリジナルのシステム開発まで、ご要望に応じてきめ細かく対応いたします」

同社は「決済市場のデファクトスタンダード」を目指しているというが、それが着実に形になりつつある。

「デジタルコンテンツや物販サイトはもろろんのこと、最近では、宿泊やクーポンサービスなど、オンラインとオフラインを組み合わせた新しい市場にも決済を提供しています。まずはお気軽にご相談いただきたいですね」。

ソフトバンクモバイルでは、個人信用情報を活用した審査を導入し、携帯電話の不正契約を抑制している。導入前の07年に、304億円あった携帯電話割賦代金の貸倒金額が、09年では73億円に減少するなど成果をあげている



2008年8月～
新規契約全件審査開始
2009年4月～
新規・機種変更含めて
全件審査開始

(ソフトバンクモバイル (株) 算出のもとグラフ作成)

お問い合わせ先

ソフトバンク・ペイメント・サービス株式会社
東京都港区東新橋1-9-1 東京汐留ビルディング8F

0120-93-5316 URL <http://www.sbpayment.jp/>